

専門用語などにつき、本文中で使用した意味に即して解説しています。(五十音順・アルファベット順)

一般用語

■アーキテクチャ

コンピュータやソフトウェア、システム、あるいはそれらの構成要素などにおける、基本設計や共通仕様、設計思想のこと。

■アップサイドポテンシャル

利益が発生する可能性。

■アプリケーション (アプリ)

特定の機能や目的のために開発・使用されるソフトウェア。

■インシデント

事故などが発生するおそれのある事象。情報セキュリティ分野ではコンピュータやネットワークのセキュリティを脅かす事象を意味する。

■オーケストレータ技術

コンピュータシステムの配備、設定、管理を自動化する技術。

■オープンプラットフォーム

ハードウェアやソフトウェアなどにおいて、製品やサービスの基本を構成する技術仕様などを公開したプラットフォームのこと。

■仮想化技術

1台のコンピュータの中に、複数の仮想コンピュータを作り、それぞれに別々の基本ソフトを入れて動かす技術。

■クラウド/クラウドサービス

ネットワークを介してソフトウェアやハードウェアなどを提供するサービス形態。お客さまはサーバーなどのハードウェアやソフトウェアを購入(所有)することなく、サービスとして必要なときに必要なだけ利用可能。

■コグニティブ

人間のように経験と知識に基づいて問題を解決する仕組み。膨大なビッグデータから有効な情報を見つけ出すシステムへの応用が期待されている。

■コネクテッドカー

ICT端末としての機能を有する自動車のこと。車両の状態や周囲の道路状況などの様々なデータをセンサーにより取得し、ネットワークを介して集積・分析することで、新たな価値を生み出すことが期待されている。

■サイバー攻撃

標的のコンピュータやネットワークに不正に侵入してデータの詐取や破壊、改ざんなどを行ったり、標的のシステムを機能不全に陥らせること。

■システムインテグレーション

お客さまの業務にあわせた情報通信システムの構築や運用などを一括して行うこと。

■ダウンサイドリスク

損失が発生する可能性。

■ディープラーニング

システムがデータの特徴を学習して事象の認識や分類を行う「機械学習」の手法。データの特徴をより深いレベルで学習し、非常に高い精度で特徴を認識できるため、人の声の認識や、カメラで撮影した画像の認識などで応用が期待されている。

■デジタルトランスフォーメーション (DX)

ICTツールにより、様々なデータの集積や経営におけるデータの利活用を実現し、新たなビジネスモデルの創出や既存ビジネスを変革すること。

■データセンター

サーバーなどのシステムをお客さまから預かり、運用管理サービスを提供する施設。

■デバイス

コンピュータやネットワークに接続する機器。

■トラヒック

通信回線やネットワーク上で送受信される信号・データのことや、その量・密度のこと。

■ビットレート

データを連続的に処理あるいは伝送する際に、単位時間あたりどのくらいの量を取り扱うかを表したものの。

■プロトコル

複数の主体が滞りなく信号・データ・情報を相互に伝送できるよう、あらかじめ決められた約束事や手順の集合のこと。

■マネージドサービス

保守や運用管理・障害発生時の対応など、システム管理を一元的に提供するサービス。

■マネージドセキュリティサービス

お客さまのネットワーク環境を監視し、検知したリスクの報告・対処を一元的に提供するサービス。

■ムーアの法則の終焉

「ムーアの法則」とは米国 Intel Corporation の創業者の一人であるゴードン・ムーア氏が、コンピュータの性能(半導体の集積密度)が18ヶ月で2倍になると提唱した定説。近年、集積回路の密度が物理的な限界に達してきており「ムーアの法則」の維持が難しくなるのではないかと、いった意見が強まっている。

■AI (Artificial Intelligence)

人工知能。

■B2B2X

他企業の顧客向け事業を支援・促進する事業。「B」は企業、「X」は顧客を意味し、個人、法人、従業員、官公庁などが該当する。

■ Dark Web

一般的なブラウザではアクセスできないwebサイト。

■ FinTech

Finance（金融）と Technology（情報技術）を組み合わせた造語で、ICTと金融を融合させることによって新しい金融サービスなどを創り出すこと。

■ IaaS

情報システムの稼動に必要な機材や回線などの基盤（インフラ）を、インターネット上のサービスとして遠隔から利用できるようにしたもの。

■ ICT (Information and Communication Technology)

情報通信技術。情報処理や通信に関連する技術、産業、設備、サービスなどの総称。

■ IoT (Internet of Things)

コンピュータなどの情報通信機器だけでなく、世の中に存在する様々な物体に通信機能を具備し、インターネットへの接続や相互通信により、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行うこと。

■ LGBT

性的マイノリティ（少数派）の総称のひとつで、好きになる相手の性別が同性の人もしくは異性だけではない人、身体の性別と自認する性別が一致しない人のそれぞれの頭文字を示した言葉。

■ LTE (Long Term Evolution)

高速・大容量、電波利用効率の高さ、低遅延などを特長とする通信方式。

■ M&A (Mergers and Acquisitions)

企業の合併や買収の総称。

■ PaaS

アプリケーションソフトが稼動するためのハードウェアやOSなどの基盤（プラットフォーム）一式を、インターネット上のサービスとして遠隔から利用できるようにしたもの。

■ RPA (Robotic Process Automation)

ホワイトカラー業務（頭脳労働）を効率化・自動化する取り組みで導入されており、「デジタルレイバー（仮想的労働者）」とも呼ばれている。

■ SDGs (持続可能な開発目標)

2015年9月の「国連持続可能な開発サミット」で採択された、2030年までに取り組むべき17の目標。

■ WinActor®・WinDirector®

2010年にNTTの研究所が開発した技術をベースとする純国産のRPAソリューション。「WinDirector®」は、「WinActor®」で作成したロボットとロボットの動作シナリオをサーバー上で一元的に管理・統制できる上位のロボット管理ソリューションで、多数のロボットを使って複数の動作シナリオを並行処理できる。

NTTグループのサービス関連用語

■ 「光コラボレーションモデル」

NTT東日本・NTT西日本が提供する、「フレッツ光」などを様々なサービス提供事業者に卸提供するサービスのこと。

■ 「ひかり電話」

NTT東日本・NTT西日本が提供する、「フレッツ光」を利用したおトクな光IP電話サービス。

<https://flets.com/hikaridenwa/>

<http://flets-w.com/hikaridenwa/>

■ 「フレッツ光」

NTT東日本の「Bフレッツ」、「フレッツ 光ネクスト」、「フレッツ 光ライト」、「フレッツ 光ライトプラス」及び「フレッツ 光WiFiアクセス」、NTT西日本の「Bフレッツ」、「フレッツ・光プレミアム」、「フレッツ・光マイタウン」、「フレッツ 光ネクスト」、「フレッツ 光ライト」及び「フレッツ 光WiFiアクセス」。

<https://flets.com/>

<http://flets-w.com/>

■ 「dポイント」

NTTドコモが提供する、個人名義の方ならどなたでもご入会いただける入会金無料・年会費無料のポイントサービス。

<https://www.nttdocomo.co.jp/support/dpoint/>